

私は団塊の世代で、10月に50才になりました。振り返るのはもう少し松をくぐってからにしたいと思いますので、最近の動向を含めて、近況をしたためてみます。

私自身にドラスティックな変化がありました。それは47才にしてスイッチが入り、お酒をおいしく楽しめるようになったことです。そのおかげで、とくに日本文化の咀嚼がすこしく深まり、広がってきています。洋酒もたしなみます。ただ、許容限界が認識できず、周囲のひとや家族に迷惑をかけることもあります。その限界を確認する作業に、ぜひ会員各位もご協力ください。

学内では、学科長をこなし、現在は、駿河台校舎のB地区再開発の専門部会長として、2004年の新学部開設にあわせた建設計画をとりまとめています。明大の21世紀戦略の一環で、リバティーアカデミー施設（リカレント教育、資格・実務教育・ライフワーク教育）、博物館（考古学博物館、刑事博物館、商品陳列

昨今の建築設備や土木施設の設備設計は、従来の技術にさらに環境問題として、動・植物との共生をいうことに重点を置いた生態系のバランスを考えたものとして、環境に順応させるというよりはさらに今まで悪化させたものを回復させることを配慮した考え方や、コスト削減として、投下資本に対する効果がより短いタイムスパンで収支する経済性を充分考えたことをさらに資源の有効活用としてサイクルをつくる等々が要求され、避けて通れない状況であります。その上より新しい“何か”（新技術、新材料、商品など）を求められている時代でもあ

近況あれこれ



坂上 恭助
理工学部建築学科教授

館)、大講堂などが収容される予定です。

学外ボランティアとしては、給排水衛生設備を中心に建築環境・設備分野にかかわるいろいろな委員会で活動しています。給排水衛生設備の設計・基準・評価のほか、環境影響評価、住宅用燃料電池、全電化住宅、SI住宅、在宅介護、家庭内事故、衛生管理、ディスポーザー、次世代トイレ、水チェイン、アジアなど、多様です。それらのなかで果実となったものとして、①事故解析実験住宅の建設（国民生活センター、1999）、②「排218「集合住宅の排水立て管システムの排水能力試験法」の策定（空気調和・衛生工学会、1999）、④「東南・東アジアの水」の刊行（日本建築学会、2000）が挙げられます。④がらみで、中国の水環境については3年前の総会でしゃべらせていただきました。アジアの水環境は、これからもずっと研究したいと思っています。はからずも「ミャンマーの伝統的住居環境と水利用特性に関する研究」のテーマが文部省科学研究費が交付となり、

篠原先生からのメッセージ 「創造と開発」



1961年卒 前水曜会会长
清水 正巳

ります。

技術に携わる者としては、この時代を乗り越えていくためには「創造と開発」ということであって、言いかえれば、

夢を抱くということではないだろうかと思っている。生涯のライフワークとして、実務の一端として追求していく命題であろうかと思われます。

今年は6、8、11月に調査に出かけます。そういえば、9月には国際会議(CIB W62)での発表でブラジルとメキシコに行きますので、それらの計画と前後の手當に大わらわの状況です。

この紙面をお借りして、会員の皆様にお願いがあります。給湯システムの省効エネルギーを検討するには、お湯の元となる水の温度がキーとなります。水道（給水）水温の推定手法を検討していますが、それを検証する実測データが乏しく、悩んでいます。建物用途は問いません。受水槽（高置水槽）の入口・出口の水温の計測データをお持ちの方は、もしくは、それらの水温計測に便宜を図っていただける方は、是非とも一報をお願いします。

いつも会員各位の一層のご健闘を祈っています。何かあってもなくとも、気軽に声をおかけください。一献もいといません。最後に、昨年、研究室・実験室がリニューアルしましたことをご報告いたします。

このことの関して、私は技術者として生涯の糧にしている「ある講演会の論文」があります。

それは、篠原先生が当時本水曜会の名誉会長であられ、(財)空気調和衛生工学会会長に就任されたのを機に、水曜会として祝賀会を開催した折に祝賀会に先がけて、記念講演をされました。そのときの講演会の内容で、若々しい先生を回想しながら水曜会の若い技術者の方々が今後の技術発展の一助になればと祈念して御紹介したいと思います。

「創造と開発」

篠原 隆政



「開発がうまくいかなかつた」という嘆きの言葉を聞くときは、同じ目標に向って新技術の開発をしている競争相手の企業が先にゴールしてしまい、開発を続ける意義を失ったときである。そのようになるのは、競争相手の仕事を直接・間接に耳にし、それに関心を持ち、自分もやってみようと後を追って開発に取り組んだときなどが多い。

もともと、人間の能力には大きな差はないはずである。後から走り出した者が追いかけ、一時的には接近したように見えても、追いつき追い越すことは非常に難しい。企業

における新技術の開発は先陣争いであるから、その成果が得られるのと得られないのでは、それから受けるショックは善かれ、悪しかれ非常に大きい。悲しい思いに会わないようにするためにには、他の企業が追いかけている開発はあまり手がけないことである。独自のアイデアで開発を始めれば、その分野では競争相手はいないし、思うままに技術開発を進め、充分に試行錯誤をし、ついには目的を達成することができる。

独自のアイデアで開発を進めるとき、その開発に参考になる文献は少なく、研究開発

の過程で結ばれる友人の数も限られてくる。孤立感に襲われる寂しいものである。しかし、途中で自己の向うべき道を放棄しなければ、新技術の開発の目的は必ず達成することができるはずである。その道の識者はそれに関する情報に精通しているので、表現は悪いが、同じ目標に向って進めている人たちの裏をかいて研究開発しているので早く未知の領域が開けるのである。私たちを取り巻くものを見てみると、そこには何も仕切られたものはない。あるように見えるのは、そのように思うからである。学問体系や学際は作られたものに過ぎないのであって、そこには必ず盲点や独自の突破口があるはずである。それに着目し、現存する事実を追究していくことによって未知の領域を開発していく

「創造力」が得られる。

現存する事実に着目し、それが未知であれば魅力を感じ、自己流の物語を作り調べ研究しようとするのが創造の糸口である。(中略)

実験に打ちこんで例外のような極めて少ない事象に気づいて、それを始めるに必ずといってよいほど成果があがり、他に先んずることができる。体得した知識は頼りになる。本当に身についた知識はいろいろな場合に役立つし、応用がきく。

創造は既知の通念からかけ離れたもので、例外と思われる行為の産物である。企業の優れた技術開発は例外と思われたものを手づるとして、実験的な精進を尽くしたときに初めて実を結ぶであろう。

(1984.6.25.)

設備一筋の雑感

篠原研究室35年卒 丹澤 元久



篠原研究室を35年に卒業して、設備設計一筋に40年の歳月が過ぎました。

その内の26.5年間を(株)総合設備計画の代表取締役として勤めましたが、この3月31日に無事大任を終えて特別顧問になりました。

社会人になって初の長期休暇を頂き、家族と出かけるリフレッシュツアーリー夢をはずませながら、反面一抹の寂しさをかみしめながらこの原稿を書いております。

さて、私達が明治大学に入学した昭和31年(1956)と言えば、いまだに戦後の傷跡も深く残り文化・経済は貧しく、竹馬の友の大学進学率は20%にも満たない時代でした。

農家の次男坊だった私などは、大学受験のための勉強は高校3年になってからでした。受験地獄・4当5落時代の暮開期でしたが、その後の偏差値教育最盛期に育った人達に比べれば随分と暢気で良き時代でした。しかし、大学に進学するならば土木か建築をやりたいと自分で決断し、親を説得したように思います。

人間が生涯を通じて有効に使えるエネルギーが万人同程度だと仮定するならば、少年時代に温存したエネルギーが、明治大学入学で一気に爆発したような感じがします。

私の設備との出会いは、2年生の秋、同じ下宿にいた2年先輩(早大4年生・現在関

西で活躍中の建築家)の卒業設計を手伝った時でした。将来、必ず設備が重要になると聞かされて、設備専攻を決意したあの時の光景をはっきり記憶しております。当時は、建築設備コースを持つ大学はなく、建築設備講座のある大学も少ない時代でしたが、篠原ゼミの存在は私にとって運命的でした。

4年生になると、自分の適性を見極めて「何ゼミ」「何教授」を選ぶが真剣でした。不景気と我が建築科の歴史の浅さから就職難の時代であり、就職活動にとってゼミに入る事が、自分の専門職種への勉強と同じ位に大切なことでした。各ゼミとも定員は少なく試験に落ちればゼミに入る事は出来ません。

幸運にも、篠原先生は開通したばかりの都営地下鉄のホームにおける粉塵の実態調査のため実習生を募集していました。

最大の魅力は、4年進級時にテストなしでゼミ生になれることでした。早速応募しました。それからは、講義もそっちのけで朝から晩まで吸引器で採取した塵埃数を数えるために顕微鏡と格闘したものです。

また、当時はキャンパス整備が盛んで、仁平ゼミ(仁平幸治助教授・照明工学研究室・電気設備担当)と同じ部屋で、北島敬造先輩や故人となられた佐野和男助手(33卒)を初めとして諸先輩達にご指導を頂きながら夜遅くまで設計を体験しましたことが懐かしく想いだされます。この貴重な体験は、社会人となった際大変な効果を生みだしました。

入社時、既に簡単な暖房負荷計算ができ、まがりなりにも換気ダクトや蒸気配管がドラフトできるまで教育していたのは篠原ゼミだけでした。

他人より常に一步さきを歩むことは社会人にとって非

常に大事なことですが、某大学の非常勤講師と企業人の立場からみても、篠原先生の時代を先取りした実社会で役立つ実技と心を磨く教育姿勢に、私は大きな感銘をうけ、かつ感謝しております。

設計手伝い最後の夜、篠原先生が直筆で“1959.12.26. pm ***”（解読不明）とサインをなされて「建築設備ハンドブック」を下さいました。今でも私の宝物として本

棚に大切に保存しております。文部省の95年の調査によると、大学生の講議出席以外の学習時間は1週間に7.2時間だそうですが、我々の学生時代はこの何倍もやったでしょう。趣味を大いに楽しむ社会システムや経済的ゆとりもなく、情報も少なく、ただひたすらに大学生として設計問題・ゼミ・設計実習・アルバイト（学費のためです）に没頭したものでした。

社会システムの全てが複雑で難解過ぎる現在に比べれば、遙かにシンプルで、希望と若さと誇りがそのまま通用した時代だったのでしょう。

今、社会システムも人間関係も21世紀にむけて轟音をたてて変革しようとしています。嘗々と積み重ねて来た社会的常識が通じなくなり、新技術も瞬く間に陳腐化してしまう程のハイスピードの時勢です。これから変化の予測

はたて難く、既成概念で対処するのではなく、自分の培ってきた知恵を基盤にしたフレキシビリティな対応力が求められてくるでしょう。豊かな文化・経済に支えられて、有り余る情報化社会の中で教育・鍛錬を受けた若者達に真正面からチャレンジして欲しいものです。さらに、都市型大学のシンボル・明治大学リバティータワーに学ぶ後輩達にも大いに期待しております。

東南アジア建設現場事情 「汝、人を信ずるなれ！」

1977篠原研卒 石川照芳

シンガポール、マレーシア等で経験した建設現場の状況を紹介しましょう。これら英連邦の国々に共通して見られことから、英國式の手法と思われます。

さて、どのようなものかというと、隠蔽されてしまう工種の手抜き工事、不正工事が行われぬよう、現場へは施主から派遣された現場監視員が必ず常駐します。彼等の雇用契約先は施主ではなく設計事務所の場合が多く、事務所も彼等の監督、指導する役目を負うこととなります。職種は構造、設備関係、インテリア等の監視員が一般的です。構造では、大卒＝エンジニアの肩書きなので、まともな人物が少なくありません。しかし、設備は非エンジニア大卒（専門学校卒や経験者）が多く、この連中が実に曲者なのです。彼等は設計事務所の目となり、耳となり、彼等の報告を元に設計事務所が問題解決策や指示を下します。しかし、彼等は誤解や陥れを引き起こす虚偽紛いの報告をして、意図的な妨害をするので現場

担当者は常に泣かされます。

その妨害とは、工程の引き延ばしです。軸体工事時は巧妙な検査指摘事項でコンクリート打設不許可、再検査、再々検査へと持ち込みます。設備の場合、埋設配管の未検査でコンクリート打設不許可や、漆喰工事の施工不許可、天井内の配管や配線等の隠蔽部検査未完了の理由による仕上げ工事不許可などです。普通、検査依頼をしても「今忙しいからあとにして、」と後廻しにされます。何處の現場も工程に余裕が無いので、係官に残業検査を依頼しても「今晚は用事があり残業出来ない。」と逃げられたり、断られたりします。また、サンプル承認にも文句をつけては引き伸ばしをします。これは何處の現場でも日常茶飯事に発生します。これらの妨害に業を煮やしたゼネコン、専門業者側が接待や裏金で処理し、問題解決を図る場合もあります。また、ある現場では係官への（加害者不明の）傷害事件であったり、地元ゼネコン社長が施主と協議し、チンピラ構造係員をクビにさせて社長自ら

構造有資格者として、毎回打設に立ち会い技術保証で解決を図った話、地下工事（地上部分も当然受注予定の物件）を受注した某日系ゼネコンが、現場監督官全員に依る妨害に根を上げ（業を煮やし？）、地上部分の受注放棄の話などエピソードにはこと欠きません。この日系ゼネコンは施主、設計事務所に事実を全て説明し、二期工事も同じ現場監視員では同じ蹉跌を踏み、結局は施主の不利益となる旨を説明、その後、施主が事実を内偵し、全員入れ替えとなつた事実も付け加えておきましょう。

この意図的妨害の背景には、現場単位雇用に原因があります。彼等は現場が終了間際に成ると次の職探しを始めます。が、現場が元の契約期間より長引けば、経緯や途中経過も分からぬ新規採用者よりは彼等の契約延長となり、楽して給料を確保できるからです。又、彼等の背後には施主や設計事務所が控え、「虎の衣を借りた狐」の如く、現場では権力者として、傍若無人ぶりを發揮するのです。施工業者は、業務上、将来の関係維持を慮り、余り強く反発しない場合が多いことにも一因があるのでしょうか。

このような状況なので、協力業者、下請け業者も仕事を選ぶ場合にはまず聞いてくる

のが次の二点です。

「設計事務所は何處？」、「現場監視員は誰？」

赴任当初、この質問はとても奇異に感じました。しかし現場の工事進捗状況や利益がこれら係員に影響されるのですから、重要な要素となります。業界で悪名轟く現場監視員がいる現場には、ストレートにゼネコンへその理由を挙げたり、また希望工事金額を高くして婉曲に仕事を断ったりします。

工期が伸びれば、経費も増大し、商売で見込んだ収入も時機がずれて無い等、何処を見てもデメリットだけが目に付きます。しかし、この方法が根強く存在する背景には、「他人は信用ならないから、常に監視する」という大原則があるからです。それでもう一つ、日本の建設会社に課せられた至上命令とも言える「工期の絶対厳守」は、海外では絶対必要条件となりません。これが原因ではないでしょうか、何時竣工するのか不明な物件が市井に多く点在します。

もし、海外で勤務される際は、自分の固定概念や価値観に固執せず、「郷に入らば、郷に従え」の諺の如く、簡単に他人を信用せず、充分な警戒を怠らずに（？）、地域独自の背景や価値を早く見極め、柔軟な姿勢で対応しましょう！！

建築環境工学研究室



教授 松尾 阳

M 1 城川 権
ゼミ生 安藤 弘記
井村 修二
木村 一直
鈴木 唯弘
野中 豪
藤崎 博行
吉野 奈美子

1999年度卒論テーマ

- 室内気流の汎用数値解析法に関する研究
これからの省エネルギー時代に、建築設備計画の段階において室内気流分布を予測し生産性の高い空気設備計画のためにアルゴリズムの開発・検討を行った。

2. 日照・日射に関する汎用コードの開発

窓から入ってくる日射量の計算方法について、精密に解析する方法を研究した。

3. 市街地気候に関する研究

建築の高層化・高密度化が、温湿度に与える影響を現象面から検証した。

4. 集合住宅の温湿度・空気質環境に関する研究

高密度住宅では居住者が排出する湿気や建材等が放散するホルムアルデヒドが蓄積されやすいので、集合住宅の計画換気について基礎的に検討した。

5. 明治大学リバティータワーのエネルギー消費量構成と総合的な省エネルギー対策の検討

省エネや地球環境への配慮という観点から様々な工夫が盛り込まれたリバティータワーの総合的な省エネルギー性能・環境配慮性を検討した。

坂上研究室

教授 坂上 恭助



M 2 黒田 晃正
生田 紀夫
ゼミ生 小藤 知武
斎藤 裕之
高橋 英二
高梨 宏記
寺門 千春
西尾 功
羽賀 達郎
松田 経樹

森 貴徳
森山 要征

2000年度卒業論文テーマ

- 給水温の予測
河川源流から浄水場・水道を経て受水槽までに至る水温を予測するもので、数年来の蓄積があり、予測精度が高まっている(神奈川大・東大共同研究)。

川大・東大・長岡技術大共同研究)。本年は実測データによる検証を主とする。

2. トラップの性能評価

トラップ性能試験装置を用いて、各種トラップの封水損失特性と封水強度を評価する。これも継続研究で、本年は数値解析と簡易計算法を併せて検討する

3. ミャンマーの住環境・水利用特性

ミャンマーの伝統的住居の温熱環境、水利用、生活スタイル等を調査する(広大共同研究)。

大共同研究、文部省科学研究費)。

4. 在宅介護水廻りのあり方

新しい卒論テーマで、在宅介護における水廻り(空間、各種器具・道具、給水・給湯・排水システム)のあり方を検討する(メーカー共同研究)。

5. 浴室転倒事故の分析

新しい卒論テーマで、家庭内事故の多い浴室に関し、滑り等による転倒事故を分析し、再現実験等を行う(日本女子大・国民生活センター共同研究)。

建築環境デザイン研究室



専任講師 加治屋 亮一

M 2 鳥海 達郎
M 1 久保 隆太郎
山口 高史
研究生 浦富 慎二
ゼミ生 赤井 啓朗
石井 悠
藤原 功典
川越 崇生
白浜 健司
高柳 慶子

平野 健太郎
芳谷 辰巳
正木 啓介
吉田 一彦
平山 鉄浩
平川 智己

1999年度卒業論文テーマ

- ノズル吹出口を用いた空調方式の気流性状に関する研究

研究

当研究室が長年行ってきた研究で、ノズルの噴出方向を水平、外向き、内向きに分けて実験および数値解析を行った。

2. 自然対流場の気流・温度性状に関する研究

室内模型を用いた放射暖房室内における温度分布の測定と可視化および数値解析を行った。

3. 建築設備デザインにおける評価方法

去年の研究を引き継ぎ、建築意匠と設備の関連性を

SD法を用い被験者実験を行い、一般に好まれる設備デザインの研究を行った。

4. 床暖房の接触音感に関する研究

実験室の床暖房を設置し、床材質や姿勢を変えて実験を行い、同時にSD法を用いたアンケートを行い、被験者の心理反応などを探った。

5. 総合病院の空調設備を実際に病院の設計を担当してもらった方にアンケートを取り、その結果を基に病院における空調システムの現時点のあり方を探った。

明治大学120周年寄付金の報告

副会長 平川 清

第2号(1999年6月発行)水曜会会報および1999年6月24日総会においてご協力ををお願いいたしました「明治大学120周年寄付金」につきましては、その後、順調に集まり、合計金額として33万円(92名分)に至り、目標額の30万円を達成することができました。

集まりました寄付金33万円につきましては、明治大学創立120周年記念事業の資金として、平成12年2月17日木曜日に、水曜会富田会長より明治大学岡村理事長に目録にて寄贈されました。また、創立120周年記念館「リバティタワー」1階のメモリアルプレートに水曜会の名が刻まれることになります。

ここに、会員皆様方のご協力に感謝するとともに御報告申し上げます。



左より 平川、岡本理事長、長吉監事、富田会長、須藤副会長

第3回水曜会ゴルフコンペ開催

—常田氏連続優勝—



昨年の平成11年11月6日(土曜日)千葉県の小見川東急ゴルフクラブで17名(5組)の参加者で、水曜会ゴルフコンペを行いました。3回目ですので常連になった方、又強制的に参加させられた方も、秋深まる晴天の中、同窓会気分でプレーを楽しみました。

競技はWペニア方式で行い、かなりレベルの高いスコアの競い合いでしたが、常田氏が連続優勝されました。

優勝 常田俊夫(1961卒 ミズズ建設)

準優勝 茂木 晃(1961卒 協和建設工業)

3位 富田隆造(1966卒 石井建築事務所)

ペスグロ 常田俊夫 グロス84(39, 45)

本年度も開催を予定しています。参加希望者は下記に連絡願います。

連絡先 (株)横河建築設計事務所 横田輝正

TEL 03-3492-7441

FAX 03-3492-2187

研究会実行委員会報告

昨年は6月24日に総会、懇親会に併せて講演会を開催致しました。

「水需給の現状とその方策」との題目で、昭和38年卒の高地先生(都立小石川工業高校教諭)より御講演を戴きました。

初めに、近年の年間消費水量の総量が約9百

億トンあり、これから工業用水、農業用水そして、建築設備として身近な生活用水に分けられ、その締める割合が約20%である等、我国の水利用の現状説明がありました。

続いて各論に入り建物別の使用水量のデータ分析値と今後の設計水量のあり方や節水方法等について盛沢山の話を、参加者約40名で伺う事が出来ました。

今年度は、9月に見学会を予定しておりますので奮ってご参加下さい。

平成12年度事業計画

副会長 平川 清

今年度も前年度同様、以下の3つの部会を中心活動いたしますので、会員皆様の各委員会行事への振る舞の参加をお願いすると共にご協力をお願いいたします。

なお、前年度までの役員会については、今年度より理事会として、年5回程度(2~3ヶ月に一度)開催の予定です。

◎運営部会(部会長:平川 委員:中山、高木、吉本、上藤)

会員相互の交流と親睦を計る。

*11月にゴルフコンペを予定

*水曜会として、現役学生に対する学術奨励賞を検討中

◎研究部会(部会長:宮沢 委員:嘉治、平松、吉田)

講演会、見学会などを企画。

*7月1日に「明治大学建築学科50周年設立祭」の記念講演への参加

*9月頃に技術見学会を予定

◎広報部会(部会長:須藤 委員:遠山、尾崎、中谷、高島)

年一回、会報を発行(5月)し、会員の情報交換を計る。

*総会案内に添付し配付する。

平成11年度事業報告

4月14日 第1回 役員会14名

6月24日 第2回 役員会12名
講演会・総会・懇親会

10月13日 第3回 役員会11名

11月6日 親睦会開催 第3回ゴルフコンペ

12月16日 第4回 役員会14名

2月9日 第5回 役員会9名

2月17日 120周年記念寄付贈呈
会長、副会長

平成11年度水曜会会計報告書

(期間:平成11年4月1日~平成12年3月31日)

事務局長 森 下 剛

〔収入の部〕

(1) 前年度繰越金	2,019,911円
(2) 会費	298,000円
(3) 120周年記念寄付金	330,000円
(4) 銀行利息	1,068円
合 计	2,648,979円

〔支出の部〕

(1) 120周年記念寄付金	330,000円
(2) 平成11年度会報作成経費	271,760円

(3) 会則改定経費	20,000円
(4) 会議費	57,421円
(5) 慶弔費	17,388円
(6) 通信費・雑費	3,200円
(7) 平成11年度総会・懇親会赤字	65,610円
(8) 次年度繰越金	1,883,600円
合 計	2,648,979円

平成12年度総会開催のお知らせ

来る7月1日、駿河台リバティタワーにおいて、「明治大学建築学科50年記念祭」が開催されます。

記念祭は、「建築学科50年の歩み」と題する記念講演、記念パーティー及び作品展示の3部で構成される予定です。詳細は記念祭の案内をご覧ください。

そこで、例年総会と同時に開催している講演会及び懇親会は記念講演会への参加に替えることにさせていただきます。

記念祭には同期の仲間に声かけあって、大挙して参加し50年に一度のイベントを大いに盛り上げようではありませんか。

なお、総会は記念講演会終了後に開催いたします。

——記——

◆総会

◎日時

平成12年7月1日(土)

記念パーティー開始前

予定時間 午後3時40分~4時

◎場所

13号館(旧大学院棟) 2階 第2会議室

千代田区神田駿河台1の1

リバティタワー北3軒隣り

◎問合せ

明治大学施設課 TEL 3296-4516

総会の出欠につきましては、同封のはがきにてご連絡ください。

会費納入のお願い

平成9、11年度には、旧会則に基づき2,000円を納入していただきましたが、本年度以降は新会則細則に定めた金額でお願いいたします。

昨今は値上がりする物の少ないなか誠に恐縮ではございますが、本会の安定的運営のためと御理解をお願い申し上げます。

同封の振込用紙は手数料加入者負担となっております。6月中にお振込みいただければ幸いに存じます。

また、誠にお手数ですが振込用紙の通信欄に卒業年月、研究室名を必ずご記入下さい。住所等の変更などもご記入願います。

◎年会費

正会員(卒業生) 3,000円

会友 3,000円

正会員(在学生) 2,000円

◎振込先

口座番号 0019-0-0413602

加入者名 明治大学水曜会

◎問合せ 事務局長 森 下 剛